

# 樹里安だより

1999年  
3月  
Vol. 5



..... 榎

なら

山

やま

「ハルサザンカ」

桃紅色、一重、小輪。弁数は5枚で、花径5cm前後。  
弁は、はじめ爪折れ状であるが、後に平開し、散り性。  
おしべは梅芯で、花糸は帯黄色、下部は紅を帯びる。  
花期10月下旬～3月。  
葉は、長さ5～6cm、幅2.5cm、下面の中肋と若枝には短毛がある。  
樹は、立性で強健、挿木の活着は良い。  
幹回りC=1.05m、樹齢500年以上と推定される大木である。  
1971年、桐野秋豊氏が記録した新品種。

昭和47年3月 日本椿協会 会誌第15号より  
写真提供(原木) 川口市安行原 中山 謙二郎氏

## 安行氷川神社境内 クスノキ

木村 四郎

昔、ある所に一本のクスノキがありました。どんな力がこの木にあったのでしょうか、ひるも夜も、ぐんぐんと伸びて行きました。いつの間にかクスノキは、その高いこずえに、時々雲がかかるほどになりました。大きなしげった枝は四方に広がって、どこまでつづいているのか、見きわめもつかないようになりました。毎朝、日が出て、クスノキの西がわにあるたくさんの村々はみんな日かげになります。また夕方近くになると、東の方の村々もすっかり日かげになってしまいます。…

これは昔の小学校の教科書にでていた物語りで「早鳥」という話の教科書の出だしの部分を書いたものです。

結局、この木は切り倒されて、船を作り、海に浮かべて漕いでみると、その早いこと、鳥の飛ぶようだった。そこで表題の早鳥と名前をつけた所以であるが、たしかに不思議な力を貯えているような、そんな力強さを感じさせるのがクスノキです。

クスノキ（クスノキ科）は、関東以南に自生する常緑高木で、公園・神社の境内などに多くみられる。各地で、天然記念物になっているほどの古木・大木は枚挙にいとまないほどである。

クスノキの樹皮は、規則的なたての割れ目が入り、木全体によい香りがします。楠という字は国訓で、漢名は樟と書きます。樟腦の樟である。すなわちこの木から樟腦をつくるのです。葉は光沢があり、葉脈は、葉の下方から目立った3本の長い脈が出るいわゆる三行脈となっています。

ここ安行氷川神社のクスノキは、あまり大きくないが、それだけに育ち盛りとみえて、勢いは盛んである新しく建て替えられた社殿を後から覆うように立っている。幹周り2.6m、高さ15m、クスノキ特有の照りのある葉が暖かい早春の弱陽をきらきらと弾き返している。



植物振興センターから北の方へ入ったところですが除路、畑仕事をしていた老人に道を尋ねた折り、このクスノキに就いて説明をしてくれました。紀元2,600年というから昭和15年のことです。これを記念して直径15cmほどの若木を植えたのであるが、一年たらずで枯れてしまったそうです。然し幸いなことにヤゴがでていたので、それを大事に育てたのが現在のクスノキです。そこの道を曲がって50mも行けばもう右手に見えるはずと教えてくれました。

隣の犬塚造園のご主人に話を伺った。およそ20年ほど前、神社移動と町会会館を建てるため、40mほど北東から現在のところへ移動した。その時幹の太さ2mぐらいであったろうか、夏だったがほとんどの枝を切除し、丸ぼうずにして5トンクレーン車で吊って移動した。6人ほどで2日掛かりという作業だったがこのあたりの土がよかったせいでその後ぐんぐんと育ち、枝切りしたのも言われなければほとんどわからないくらいです。

その記念樹クスノキすでに50余才、これからあと何年生きていくのだろうか。もともと千年2千年を生き抜く樹である。延命長寿の象徴とさえ言われるこのクスノキのたくましさ、力強さは人の心を魅きつけずにはおかないものを持っている。天をも突くような大樹に育ってほしい。はるかな未来に思いをこめて社頭に拍手を打った。

楠の根を静かにぬらす時雨かな 蕪村



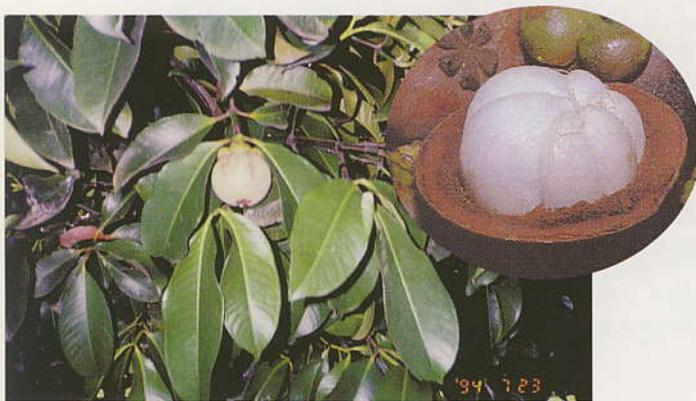
## 熱帯の3大果樹

- ★ ドリアン (果物の王)
- ★ マンゴスチン (果物の女王)
- ★ マンゴ (果物の王女)



ドリアン

ドリアンは東亜熱帯産の果実を代表するものである。きわめて立地を選ぶため、いまだ東南アジアの一部以外では土着していない。古くからドリアンを果物の王King、マンゴスチンを女王Queen、マンゴを王女Princessになぞられているが、ドリアンの果面に剛刺を具えた近づきがたい偉容は、その臭気として感ずる強烈な芳香とともに、熱帯果実の王たるにふさわしいものといえる。一度食べると病みつきになる人もいます。



マンゴスチン

マンゴスチンは、その高尚で爽快な甘酸味が万人の魅力を惹き、古くからドリアンとならんで、東亜熱帯の著名な果物として知られているが、日持ちがしないため輸送がきかず、また栽培上極端に適地を選ぶので産地が広く分布するにいたらない。上品な香りと、甘さと酸味とのバランスがとれた味は、まさに貴婦人の趣といってもよい果物です。



マンゴ

マンゴは熱帯産の生食用果物として甚だ優れたもので極めて古くから栽培されており、ことにインドでは宗教、文学、美術、習慣、民俗など、人びとの日常生活と深く結びついている。

熟した果実を食べるだけでなく、青い果実を青リンゴのように食べるもの、あるいは漬物にしたり、乾燥させて料理に使うものなどいろいろな品種が見られます。

## ● 樹冠の美

各樹種には、それぞれ本来の生長型がある。その生育環境に影響されて必ずしも本来的な形を形成しない場合も多い。しかし、植付けや剪定を行う場合は各樹種のあるべき樹冠形、あるいは将来形成するであろう樹冠形に留意する必要がある。各樹種の本来の樹冠形は、生育の段階により異なり、一般に樹齢を経るほど丸味を帯びて来る。樹形を整える場合は、その樹種の樹齢にふさわしい樹形にすることを心がける必要がある。

## ● 自然樹形と人工樹形

樹形は樹種により、樹冠と樹幹によって特徴づけられる特有の形を表す。樹形は本来は樹木自体の個性による生長型によって決まり、これが樹木の姿の基本である。

しかし、実際には樹木は何らかの外界の影響を受けて、それぞれの複雑な姿勢を示すこととなる。

立地環境条件その他の条件で種々の変化を示す。

### (イ) 自然樹形

造園樹木の樹形には自然条件によってできるものと、人工形の二つがある。

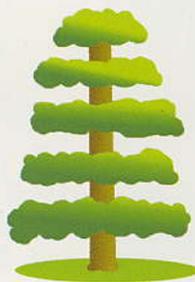
自然樹形にはそれぞれの樹種ごとに幼木形、成木形、老木形があり、また同じ樹種であっても自然立地環境によって異なる樹形が見出される。

### (ロ) 人工樹形

造園樹木はある限度内で人為を加えることができる。萌芽性の強い樹木を刈込んで整形したり、樹幹を主として誘引によって曲幹状、斜幹状等の幹形を作ったりする。剪定により、幹や枝から多くの枝を萌芽させたり、あるいは生長を抑制することによって矮性化するなど、種々な人工樹形を作る。



トピアリー



車仕立て



円筒形仕立て



円錐形仕立て



円柱形仕立て



丸形



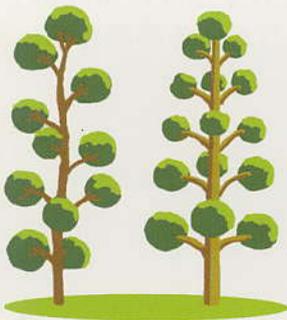
玉仕立て



スタンダード仕立て

## 葉族仕立ての樹形

葉族とは、枝と葉からできる一つの形を持った群団である。葉族は樹木の形態美の一部をなして、老成木になると、一般の樹種は自然に特有の葉族ができる。



玉作り(玉散らし)



貝作り



段作り



ボタン刈り



波形作り

## 樹幹仕立ての樹形

樹幹には1本立のもの、数本立のものなどがあり、また、直幹のもの、曲幹のもの、直立形のもの、斜幹、双幹、株立ちのものなどがある。



直幹仕立て



曲幹仕立て



伏幹仕立て



斜幹仕立て



株立ち(武者立ち)仕立て



双幹仕立て



## ワシントン条約

(わしんとんじょうやく)

絶滅のおそれがある野生動植物を保護するために、過度に国際取引に利用されないように採択された国際条約のことで正式名称は、「絶滅のおそれがある野生動植物の種の国際取引に関する条約」といい、通称「ワシントン条約」と呼んでいます。

この条約は、1973年3月、81カ国が参加してワシントンで採択され、1975年4月に発効しました。日本は、1980年11月に批准しております。この条約によって国際取引が規制されている野生動植物は、海外から持ち込みが厳重に規制されています。植物の場合、園芸的に人気のあるラン科植物やサボテン科植物、多肉植物、食虫植物のほとんどが国際取引の制限を受けています。保護の必要な程度によって、野生動植物の附属書で、3ランクに分類しています。

なお、このワシントン条約は国際取引に関する条約で、ワシントン条約批准以前に国内に導入したのから繁殖したものを国内で取引する場合は、なんら問題はありませぬ。

☆Ⅰは、絶滅のおそれがあり、商業目的の国際取引が禁止されている野生動植物が該当しています。

これに該当するものは、特に厳重に国際取引が禁止されています。

☆Ⅱは、現在必ずしも絶滅のおそれはありませんが、国際取引を制限しないと絶滅のおそれがある野生動植物が該当しています。輸出入に際しては、輸出国の輸出許可書が必要です。

☆Ⅲは、条約締結国の事情で国際取引を規制する必要があると認めたものが該当しています。

## 絶滅危惧種 (ぜつめつきぐしゅ)

個体数が著しく減少していたり、生育地の生育条件が著しく悪化していたり、あるいは植物自身が繁殖する能力をはるかに上回るスピードで採集されたりするなどの理由で、現在、最も絶滅のおそれがある植物をいいます。

## 残存種 (ざんぞんしゅ)

過去にたくさんあった植物のうち、生育環境の変化によって衰退し、特定の地域に生き残っているものを残存種といいます。

## 固有種 (こゆうしゅ)

ある特定の地域のみには分布していない植物を固有種といいます。

島に生育する植物は、海による隔離のため固有種が多くなる傾向があり、わが国の野生植物約5,300種のうち、約34%に相当する約1,800種が固有種です。

## 希急種 (ききゅうしゅ)

いますぐ絶滅するというわけではありませんが、このまま放置すれば確実に絶滅の方向に向かうと考えられる植物をいいます。

## 希少種 (きしょうしゅ)

特に絶滅の恐れがあるということではありませんが、もともと生育している場所や個体数が非常に少ない植物をいいます。



## 川口緑化センターの主なイベント 報告



### ♣ 高所作業車特別教育講習会

(平成10年4月24日)

※技術研修事業

造園業界の資質向上と機械作業における労働安全の向上を図るため開催しました。



### ♣ 第46回春の安行植木まつり

(平成10年4月11日・12日)

※植木まつり事業

植木の里・安行をPRし、花、造園、特産農業の振興及び緑花知識の普及と向上を図る目的で開催しました。



### ♣ アサガオ・ほおずき市

(平成10年7月11日・12日)

※特別会計事業

夏の風物詩となっているアサガオ・ほおずきと、鋳物風鈴をまじえ展示販売を開催しました。

### ♣ 緑花ナイトバザール

(平成10年7月18日～20日)

夏に咲く花、夜に咲く花など、コニファー・トピアリー展を開催し、緑花知識の向上と普及を図るとともに、ハワイアン演奏、子供向け映画鑑賞、昔懐かしい大道芸等を開催しました。



### ♣ 園芸療法ワークショップ

(平成10年10月27日)

アメリカ、カナダから園芸療法士を招いて、実践的な内容と、園芸療法プログラムにおけるボランティアの活用についてのノウハウを学びました。



# 緑花アラカルト

## 伝統の技術

### 枝物（えだもの）

花が咲く前に枝を切ったもので、主に「いけ花」の材料として使われます。桃、桜、梅、ツツジ、ボケ、雪柳、ヒバ類などがあります。



### 枝物が生まれた背景

徳川三代の将軍が揃って花好きであったため、庶民にまでその園芸が普及していました。明和・安永（1764～1780）の頃、赤山に住む岩橋太郎兵衛が江戸に売り出したのが枝物切り花の始まりとされています。

### 枝折り(しおり)の工程

花の咲く前の枝を切り、枝を折るように束ねることで、輸送中の蕾の落下を最小限に防ぎます。枝折りされた枝は、水揚げされた後15～20度の温度で養成され、開花直前の蕾の状態でお届けされます。

## ご存知ですか 川口の名産

### 刺身のつま

## ミョウガタケ

ミョウガは夏から秋にかけて出まわる(子)の方が馴染み深い(親)である茎の部分も日本料理にとって欠かせないものです。刺身のつまや焼魚の付け合わせに使われるミョウガタケがそれです。地下茎から伸びた若い芽が篠竹の筍に似ていることからその名がつけられました。

川口でミョウガタケの産地として知られるのが江戸袋一帯です。

12月初旬に床入れし、5月頃で終わります。出荷先は大田市場と川口市場です。



写真提供：川口市江戸袋 吉田庄一氏



発行日  
平成11年3月1日

発行  
財団法人 川口緑化センター  
〒334-0058 川口市安行領家844-2  
TEL.048-296-4021  
道の駅「川口・あんぎょう」

ホームページ <http://www.sainet.or.jp/~jurian/>